

ノロウイルス抗原検査				8129700	
				担当部署	
ノロウイルス抗原				微生物	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		患者自身が採取する場合は良質の検体が採取できるように適切な採取・保存方法を十分に説明し協力を求める			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*7.特殊細菌→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		<p>滴下量が多い、又は少ない場合、正しい検査結果が得られないことがあるので、反応容器の試料滴下部へ試料 3 滴滴下を厳守すること。</p> <p>測定原理（イムノクロマトグラフィー法）の特性上、15 分以降も反応及び発色がわずかに進行・継続するので、反応時間 15 分での判定を厳守すること。</p>			
検査受付時間		8 : 15～16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		該当なし			
検体採取の特別なタイミング		特になし			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	糞便	細菌 便容器 6	なし		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		<p>室温</p> <p>感染性が強いので採取容器を袋等で覆った状態で採取後直ちに提出</p>			
検体受入不可基準		検査ラベルがない検体			
保管検体の保存期間		2 週間（再検査・追加検査は要連絡）			

検査結果・報告						
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		1～2 日				
生物学的基準範囲		陰性（－）				
臨床判断値		該当なし				
基準値					単位	なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値		高値	該当なし			
		低値	該当なし			
生理的変動要因		該当なし				
臨床的意義		ノロウイルスは冬季急性胃腸炎や、冬季ウイルス性食中毒の原因ウイルスとして広く知られている。				
		糞口感染し、24～48 時間の潜伏期間の後、胃腸炎症状を発症する。				
		腹痛、嘔吐、発熱、下痢が主症状だが脱水症状から劇症化し入院を必要とする症例もある。				
		ノロウイルス感染が直接死因となる例は報告されていないが、高齢者では嘔吐、脱水など感染に伴う諸症状により死亡した例も報告されている。				
		「臨床検査法提要 改訂第 34 版 2015 年」				